



カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
Tel. 095-843-3869
Fax 095-843-3417
振替口座 01880-5-2699
発行人
大水文隆
印刷所
株式会社 藤木博英社
〒850-0852
長崎市万屋町5-13
Tel. 095-821-2146
Fax 095-821-2148

ユスト高山右近没後400年

今もキリストに

倣う人の先駆けとして

人の知恵に頼ることを止めて天を仰げば、かつて見た星が先だって進んだ。行くべき道を求める人にとって、主の公現の福音は生きていて力強い。貧しさに窮まる日本の教会で、かつて生まれた星が再び道案内になろうとしている。

今なぜ高山右近の列福か

徳川家康の命によって追放地マニラで客死したユスト高山右近。この2月3日でちょうど400年になる。没後すぐにフィリピン管区のイエズス会は右近の列福申請に着手した。しかし日本は激しい弾圧の後、長い潜

伏時代に入り、イエズス会も一時解散を余儀なくされた。そして、右近の列福手続きも歴史に埋没していった。日本二十六殉教者の列聖、二〇五殉教者の列福、トマス西と十五殉教者の列聖、そしてペトロ岐部と一八七殉教者の列福。次々と先を越され、日本人として最初に列福を願われた人は没後400年の今、列福を間近に控えている。

委員会で、右近の歴史的事実と信憑性が審議され通過した。そして今年6月5日、神学委員会で右近の信仰・霊性・現代的な意義が審議される予定だ。この会議の同意後、教皇によって列福承認が宣言される。

右近の生涯を丁寧に調べて黙想したとき、神がここまで右近の列福を引き延ばされた理由がわかる。イエズス会の創立者の一人ピエール・ファールは、「時は神からの使者だ」と言った。日々の生活に疲れ果て、できたら自分の自由な時間を持ちたいと、福音にかかわることから逃げ回る私たちに、福音のたまめなら「走っても弱ることな

く、歩いても疲れない」(イザヤ40・31) 信仰者の姿を、右近を通して示そうと遣わしてきた。さらに250年の沈黙をかいぐり、「ワレラノムネ アナタノムネ オナジ」と告白した復活キリシタンが受け継いだオナジ信仰の内容をたどれば、潜伏の教会の入口に、オナジ信仰を携え鮮やかに生きていた右近に行き着く。

日本の信徒発見150年と右近の列福を「神からの使者」として迎え、回心と日々の生活をもつて使者に返答したい。教会が行う列福や記念は、単なる懐古主義ではない。「昔も今も聖人たちの役割ははつきりしています。傷みかけた教会を修復し、人々のうめきに添えて働く聖霊のささやきに静かに耳を傾け、その協力者となることです」(2014年4月27日、ヨハネ23世とヨハネ・パウロ2世列聖式での教皇フランシスコの説教)。

降りにいく生き方
摂津国の高山に生まれ、フィリピンのマニラで終わるまでの63年の人生。その半生の28年は追放の生活だった。戦乱の世に身分ある家柄の子として生まれ、た右近は、下克上の熾烈な競争

社会の中で、もつて生まれた才能で頭角を現し、時の権力者信長・秀吉・家康が目留める存在にまで上り詰めていく。成功者として洋々たる前途は開けていた。しかし、権力者の思惑通り、また周囲の人たちの期待とはまったく違った生き方を、右近は見せていく。上り詰めたかに見えた人が「降りていく生き方」を選び、一番低いところからいのちの方向を示すとき、力を誇示する人とはまるで違った輝きを放つ。

世の中の力におもねない人。心細く生きる人を大事にし、礼を失せず、清さを求める人。そうしてそぎ落とされて残ったのは、「十字架の死にいたるまで従順に生きる」姿だった。過酷な競争社会の中で、神は負け組の右近を通して「神のご大切」を伝えようとした。それは、競争原理を基軸にした現代社会で、福音を生きようと願う私たちが、重なる。教会が今ある、ここに。

あの人のようになりたくて
第2バチカン公会議は、洗礼によって神の子とされた人はキリストの預言職・牧職・祭司職

150周年祭の教皇特使

ケヴェド枢機卿を任命

教皇フランシスコは1月17日付で、長崎で祝われる「日本の信徒発見」150周年祭の教皇特使として、フィリピンのコタバト教区大司教、オランダ・ペルトラン・ケヴェド枢機卿を任命したと発表した。来崎日程の詳細はまだ決まっていないが、3月17日、大浦天主堂でのミサに参加する。



浦上教会信徒会館での練習風景

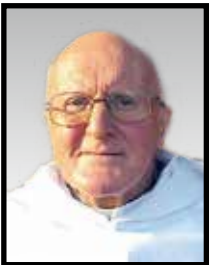
3月に予定されている日本の信徒発見150周年記念劇「そしてサンタ・マリアがいた」にキリシタン復活の物語」の上演に向け、出演する長崎中地区の司祭・信徒、裏方スタッフら総勢約80人による舞台づくりがますます熱気を帯びてきた(写真)。劇は、潜伏時代の浦上キリシタンの日常や、大浦天主堂での司祭と信徒との奇跡的な出会いの場面などを描く。監督・脚本は古巣、警務。長崎中地区評議会主催。

3月11日(水)18時30分、長崎市のチトセピアホールで上演。中学生以上千円、小学生以下無料。チケットは各教会で受付中。

★ほしかげ★
老人ホームに病人訪問に行ったときのこと。そこには5人の信者がいた。その場を仕切ってくれる女性がいつものように、「神父様の来たばい。お祈りするよ」と声を掛ける。するとそれまで目を閉じていた100歳になるおばあちゃんが、目を開いてキヨロキヨロしている。そして私に向かつて、「兄ちゃん。神父様のお見えんけん、そこばどける」と言う。周りの人が「こん人が神父様たい」と言っても信じない。「それは偽者たい。私よりだいぶ若かもん。」最後まで信じてもらえなかった▲教皇フランシスコは、一昨年の聖香油ミサの中で呼び掛けていた。「恵みの仲介者とならない司祭は……『羊の匂いのする』牧者となることとがありません——これが皆様にお願いしたいことです。本当に『羊の匂いのする』牧者となつてください——」▲司祭になった当初はシミも汚れもなかったと思う。しかし時を経るうちに、余計な匂いをまとってしまつた。「それは偽者たい。」一途に信仰の道を歩んできた人に、ごまかしはきかない。羊の匂いの染み込んでいない牧者のもとには、もはや羊たちは近づいては来ません(「教区シノドス提言9」)▲時には司祭の過ちを正し、本来の姿に立ち返るよう招いた高山右近。牧者を命懸けで探し求めた浦上のキリシタンたち。彼らの証しを振り返る私たちに、彼らは何を語り掛けているのだろうか。(F・O)

モーリス・マホニー神父

(聖アウグスチノ修道会)



昨年12月29日18時ごろ、長崎市の聖フランシスコ病院で逝去。81歳。1933年10月19日アメリカ合衆国マサチューセッツ州生まれ。60年7月10日司祭叙階。62年来日、城山教会へ。75年福岡・笹丘教会、87年名古屋

屋・港教会、88年から20年間にわたり東京・葛西教会で司牧、2008年城山教会に赴任した。

通夜と葬儀ミサの説教師を務めた同修道会日本分管区長の柴田弘之師は、マホニー師との思い出を分かち合いながら、「神父様はいろんな意味で、いつも共に歩いてくれる旅のガイドだったと思います。ここ数年は骨折や病気の苦しみに耐え、その姿に何度も力づけられてきました。もう一緒に散歩や話しや旅ができず本当にさびしいことです。が、神父様の思い出はこれからも私たちを励まし支

え続けてくれると信じています」と語った。葬儀・告別式は31日10時から、高見三明大司教主司式、30人余の司祭団と多くの信者らの参列のもと城山教会で行われた。

分、モントリオール・サン・スルピス司祭会カナダ管区本部で逝去。93歳。1921年1月9日モントリオール生まれ。47年6月5日司祭叙階。48年サン・スルピス司祭会カナダ管区に入会。50年来日、福岡サン・スルピス大神学院(現日本カトリック神学院福岡キャンパス)の養成者に着任。57、68年、3期にわたり大神学院院長を務めた。その後、インドで司祭養成者の養成コースを指導、サン・スルピス司祭会カナダ管区顧問、スルピス会員の養成責任者を

歴任。76年再来日、福岡サン・スルピス大神学院養成者に着任。94年5月11日離日、モントリオールの管区本部に引退し療養していた。就寝中に静かに息を引き取ったとみられる。日本カトリック神学院院長の白浜満師は、「日本やインドで司祭養成のために長年働かれ、司祭養成のあり方を当地で育った邦人司祭に引き継がれた功績は大きい」と話した。

葬儀・告別式は1月10日10時半から、モントリオールのノートルダム大聖堂のみ心聖堂で行われた。

あの人のようになりたくて
第2バチカン公会議は、洗礼によって神の子とされた人はキリストの預言職・牧職・祭司職

あの人のようになりたくて
第2バチカン公会議は、洗礼によって神の子とされた人はキリストの預言職・牧職・祭司職

あの人のようになりたくて
第2バチカン公会議は、洗礼によって神の子とされた人はキリストの預言職・牧職・祭司職

信徒発見150周年と高山右近列福に向けて
これだけのことは知ってほしい⑫

信徒発見150年祭に際して ー日本教会の今後を模索してー

望洋庵庵主 溝部 脩

1614年、禁教により宣教師たちは全員国外追放となった。この間、宣教師たちは残留したり潜伏したりで、どうにか1640年代まで日本教会の信者のために働くことができた。後は単発的に訪れた司祭たちであり、すぐ捕えられたり、転んで生き延びたりであった。それから250年間、司祭なしで信者たちは息をひそめて信仰を守り続けた。この間のことを詳しく述べる必要はない。ただひとつ言えること、それはキリシタン時代の信仰は、現代に生きる私たちとつながっていることである。むしろ、先達の信仰が、何か現代の教会に伝わっていないという焦りに似た気持ちがある。2008年、188人の日本殉教者の列福式が長崎で行われたが、あれから6年たつて、それは何だったのだろうとの疑問がある。現在、高山右近の列福が間近といわれているが、それも単なる形を整えた儀式に過ぎないものになるとすれば、あまり意味を持たないといえそう。

もうひとつ、あれほど盛んであったカトリック事業体(学校、社会福祉施設)は、設立母体であった修道会に人材が不足しており、次を継ぐことができない人材の育成にうまく成功しているとは言い難い。今後どうするのか、危機感を抱いている人たちが、少しずつ問題を提起する集まりをしているが、これといった成果が見えていない。暗い話ばかりを書き連ねたが、それもこの教会の在り方に、ひとつ物申すキリシタン時代の実情があるからである。

現在のカトリック教会概観

現在カトリック教会は、教勢が伸びないということに悩んでいる。若者の教会離れが目立ち、教会は高齢化して、その将来を危ぶむ声もたびたび耳にする。司祭召命は危機的であり、聖体奉仕者や集会祭儀者の養成もままならず、終身助祭制度を導入しても、急場の対策としか映らない。西欧からの宣教師派遣が皆無に近い中で、アジア近隣諸国より司祭派遣を願っている教区、修道会も多い。果たしてこれらの新しい宣教師が、日本教会再生に向けてどれほど貢献できるかは未知数である。はっきりしたポリシーがないまま、これらの制度や人材派遣を繰り返しているうちに、日本教会の特殊性が失われてしまう可能性すらある。

危機感を抱いた人たちがそれぞれ考えることがあって、種々の活動を展開しているのも現代の教会の現状である。人間、しば

拡げるといふ様相の方が強いといえそう。キリシタン時代の霊性運動は、現代の日本に刷新の在り方を示唆している。400年前の宣教師はいずれも当時の時代の息吹を生きていた。ヨーロッパでは「新しい信心」(Devotio moderna)という運動が盛んであり、その影響を多分に蒙っていたのが、初期の日本教会の宣教師たちであった。王であり、皇帝であるキリストを崇めた中世の信心に対して、「新しい信心」の人々は、キリストをもっと身近な、生活の中の人として受け止めようとしていた。聖書を単なるイエスの物語として読むのではなく、目の前にいる人として瞑想することを中心としていた。

現代、黙想という、すぐ修道者がするものと考えがちである。小教区の年の黙想会も講師の話聞いて、よかつたとか、面白くなかつたとかということと終わることが意外と多い。聖職者といわれる人たちが、日々の黙想は修道者の特権と考えたりしているのには驚かされる。キリシタン時代、日本教会が基本とした方針は、一般信徒に日々の黙想を奨励したことにある。

当時ベストセラーとなった本に「こんでむつすむんじ」がある。現代でもよく読まれている「キリストに倣いて」(トーマス・ア・ケンピス)のキリシタン版である。多分現代でも読まれているという表現は間違っているかもしれない。はや、その本を知らないキリスト者が多いのが実情だからである。キリシタン版の「キリストに倣いて」は、原文にある修道者向けの内容を全

て一般信徒向けに書き換えたのであった。この世の事柄は全て過ぎ去り、全てが空しいこと。キリストに学び、キリストに従って歩むことが人生の最大事であると説いていた。そのためには、キリストの生涯を深く黙想することが大切なのであった。日々の黙想を信者に課すことで、教会の発展を考えていた。大切であると説いたのみならず、その黙想の仕方も詳しく信者たちに紹介して、自分で黙想ができるように教育した。

聖イグナチオの「霊操」の内容は早くから日本教会に導入され、日々の黙想の材料として利用された。日本では「霊操」を単に翻訳することだけをしないで、イエズス会士のために主に書かれた本書を、全て一般信徒向けに書き換える作業をしているのである。というより、「霊操」の内容を理解した上で、初めから信徒のために書かれた新しい本といつてもよい。「スピリツアル修行」は3巻から成り立っているが、その第1巻はロザリオの玄義の黙想にあてられている。単にロザリオを唱えるというより、ロザリオを通してキリストの生涯を黙想することを主眼としている。その黙想たるや、非常に具体的であり、イエスの時代の人々が現代に生きているかのように描き出したのであった。紙面の関係で、その例をひくことができないが、驚くほど日本の事情に合わせた黙想に仕立てあげてい

る。キリスト教が深く日本に浸透している証拠である。ロザリオを唱えるというより、玄義の黙想を中心に置き、それができる段階で10のアーベ・マリアを唱えたのであった。第2巻、第3巻も同様であり、黙想の手引きといつてよい。「こんでむつす」を愛読したという細川ガラシア夫人の記が残されている。天草の殉教者、荒川アダムは入牢した時に持参したのは、この「こんでむつす」であった。高山右近の茶室は祈りの場であったといわれる。その実は観想の場であったと考えよう。これらの人々に殉教への憧れを抱かせたのは、いずれもこれらの霊的書物であった。最近、迫害下にも信仰を保った最大の理由は「組」の組織であるといふことが盛んに論じられているが、単に組織が信仰を守ったのではなく、黙想を中心にした組づくりに成功したことにあるといつてよい。

現代へのメッセージ

長崎において再宣教150年祭を企画していると聞いている。嬉しいことだし、ありがたいと思っている。単なるひとつの行事にしないで、日本教会再生の大きな契機となることを希望してやまない。長崎は多くの霊的遺産を受け継いでいる。必ずそれを日本教会全体のために活かしてもらいたい。

市民に向けた公開講座

大浦天主堂で4回にわたって開催

日本の信徒発見150周年を記念し、長崎教区は2月21日から3月14日までの毎週土曜日、4回にわたって公開講座を企画している。

講座では150年前の出来事だけでなく、キリスト教そのものと、日本におけるキリスト教の持つ意味なども取り扱われるが、その意図について

高見三司大司教は次のように述べている。「カトリック信者だけでなく、広く市民に向けた公開

講座を開きたいと考えました。キリ

公開講座は19時から20時まで、大浦天主堂で行われる。入場無料。講師とテーマは以下の通り。

月 日	講 師	テーマ
2月21日	高見三司大司教	キリスト教
28日	デ・ルカ・レンゾ師	キリスト教伝来
3月7日	片岡千鶴子修道女	キリスト教禁止令
14日	古巣 馨師	信徒発見

新刊良書

★イエスこそすべてに
けるすべて——コルカタの福者テレサへのノヴェナ
編著II ブライアン・コロ
ダイエチユック



福者マザー・テレサ自身の語られた言葉から成るノヴェナ(9日間の祈り)。「神の愛の宣教師司祭会」会員である著者は、コルカタの福者テレサ列聖担当者、マザー・テレ

★あなたのために私は生まれた——聖テレサの生涯とことば
編II 東京カルメル会女子修道院／ホアン・カトレット
絵II ホセ・カトレット



イエスの聖テレサ(アピラの聖テレジア)の生涯と、生きる意味へのヒントを示すことば集。ドン・ボスコ社、税別700円。

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式

(有) 栄光式典社

代表取締役 ヨハネ 西村 勇二

長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011

24時間営業 FAX(095)843-9896

白蟻調査無料・駆除予防工事5ヶ年保証付
白蟻防除施工士

大田白蟻研究所

代表者 マリア 大島 睦子

(〒850-0811) 長崎市矢の平1丁目14番15号

長崎 095-822-8436

FAX 095-822-8488

カトリック深堀教会納骨堂「ラザロ館」

納骨櫃 好評販売中!!

1室 55万円・60万円 全240室

●風光明媚な深堀の丘の上にある静かな環境! ●車横付け・駐車場完備!

カトリック深堀教会

お問い合わせ
お申し込みは

長崎市深堀町5-272
☎ 095-871-3459
受付時間 10時~15時 (但し月曜日を除く)

司祭叙階を前にして

たくさんの方に
支えられて

フランシスコ・ザビエル
小島明



神様の計り知れない恵みに感謝をささげ、多くの人の祈りや支えの中で、司祭への道を歩んでくることができました。これまでの召命の道を思い出すと、いろいろな節目の時にかけられた言葉が大きな心の糧になっていると感じます。私が小神学校に入る前に、神父様から「神父様（の生き方）が一番よかよ」との声がかかりました。それが召命のきっかけでし

た。最初はそれほど意識しなかったのですが、次第にその意味が少しずつ心の中に染み込んできました。神学校に入ってから、祈りや支えが深まっていきました。たくさん同級生や友達との出会いと別れ、私のために祈ってくださっている恩人や家族。その出来事と、思いの中はたくさん言葉がありました。それが自分を司祭へと向かわせたのだと思います。

はじめに、司祭召命という道を歩ませ、支えてくださった神様と、霊的物的に支援してくださった多くの皆様に感謝いたします。本当にありがとうございます。私に司祭への道を歩むきっかけを与えてくれた

自分にとって、司祭への道をきちんと確認するものとなりました。今までお世話になったすべての方々への感謝、どんな時でも力強く後押ししてくださっている神様にすべてを委ねて、祈りをささげていきます。これからもよろしくお願ひいたします。

司祭という生き方

ヨセフ 稲田伸也



のは、小学生の頃、小神学校でのイベントにことあるごとに誘ってくださった神父様と、何よりも諫早教会から先に小神学校に入学していた先輩の存在でした。また、子どもの頃から多くの神父様・シスター方から「司祭になりなさい」と言われ続けてきたことも影響したのかも知れません。いづれにしても、私はそんな人々の背中を追って小神学校に入学し、司祭への道を歩み始めました。

これは、司祭として生きることに本当の意味を考へ始めたのは、恥ずかしい話ですが、日本カトリック神学院に入学してからでした。「司祭は職業ではなく、キリストを生きるといふ生き方である。」神学院入学後、このような趣旨のことを、亡くなられた中島健二神父様から言われました。この言葉聞いて初めて、私は司祭が生き方であり、キリストを生きる者でなければならぬことを突き付けられました。自身の生き方と向き合う、この意味において、私の司祭への歩みはここから始まったように思います。

略歴 1986年11月5日生まれ。諫早教会出身。99年長崎南山中学校入学。2002年長崎南山高等学校入学。05年長崎総合科学大学人間環境学部環境文化学科入学。09年日本カトリック神学院入学。14年3月21日助祭叙階。

司祭・助祭叙階式

3月1日(日) 15時 浦上教会
司祭叙階受階者
F・ザビエル 小島明(浜脇)
ヨセフ 稲田伸也(諫早)
助祭叙階受階者
パウロ 山内啓輔(田平)

お知らせ

〔深堀教会新住所〕
長崎市深堀町5・272
〔西町教会新FAX番号〕
095・844・8505

感謝

― 寄付 ―

長崎コレジオ

● ショファイユの幼きイエズス修道会大浦信愛修道院様

長崎カトリック神学院

● 浦上教会辻町婦人部様

● 松本ヨシノ様(鯛之浦)

― 香典返し ―

長崎カトリック神学院

● 松本千春様(鯛之浦)

故ペトロ松本敏道様

右の方々から「寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。」

再び家庭を振り返る (完)

教区家庭特別委員会 鳥瀬文武

最近、気になることがある。けいこの時、十字を切る子どもが何か変である。教会に入る時、十字を切らないで席に着こうとする子どもがいる。「聖水に指をつけて、十字を切った席に着くように」教えるが、何かピンとこないようだ。どうして「きちんと十字を切れないのだろうか」と考える。カテキスタが原因だろうか。それとも、親(信徒)が原因だろうか。

共に連れ 立つて『父の家に帰るための道筋として、3つの事柄が提言の柱とされた。読者の皆さんは、既に「カトリック教報(12月号)」で内容のことを詳しく読まれたことだろう。

わたしが注目したのは、一番目の「司祭・修道者・信徒の回心と霊的養成が不可欠である」との提言である。「回心」と「霊的養成」。外に目を向けるあまり大切なものを忘れていたのかもしれない。自分にとって不都合なこと・嫌なことを避けていたのかもしれない。特に子ども

の信仰教育の面から見ると、ば、どちらも必要である。カテキスタは子どもを見、その声を

よく聞き、子どもの目線にへりくだる。また、親の声をよく聞き、親との交わりを密にしななければならない。一方、親は無関心にならないで、カテキスタとの交わりを行い、祈りをはじめとして、家庭での信仰教育を子どもに施す。難しい部分もあるが、失敗を恐れない。継続が大事である。分からない場合は、勇気を出して周りに尋ねること

も必要である。そういう意味では、親としての信仰養成が大事になってくる。

修女連々新年の集い

交わりの熟練者としての証し



1月3日(土)カトリックセンターにおいて、教区修道女連盟(担当司祭三村誠一師)の新年の集いが行われ、120人の修道女が集った。

高見三司大司教は講話の中で、教皇フランシスコの使徒的書簡「奉獻生活者の皆さんへ」で述べ

られていた特別年の3つの目的「感謝の心をもつて過去をふりかえり」「熱意をもつて今を生き」「希望を持って未来を迎える」のために、教皇がかつて言った「修道者がいるところに喜びがある」という言葉を生き、交わりの熟練者となるよう招いた。「交わりの中で出会い、対話し助け合いへと広がって未来を築いていきます。自分の殻から出て行き、相互理解に向けて新たな歩みがより深くなりますように。」

2015年〈春〉結婚講座のご案内

カトリック教会で結婚することの意味を学びながら対話を通して2人の関わりを深め幸せな結婚生活をめざして心の準備をしていきます

- ◆日時 4月7日～6月16日 午後7時～9時
＊毎週火曜日の連続10回(5/5を除く)
- ◆場所 カトリックセンター2階講堂
- ◆受講費 1人8,000円(当日受付にて)
- ◆定員 40名(20組になり次第、締め切ります)
- ◆申込方法 「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送で下記へお申し込みください。詳細は主任司祭にお尋ねください。
- ◆申込先 〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内「家庭特別委員会」
- ◆連絡先 Tel 095-842-4450 Fax 095-842-4460
(担当:辻)

回	月 日	講 師	テーマ	内 容
1	4月 7日	司 祭	カトリック教会の結婚観と愛	開講式
2	14日	信 徒	夫婦愛を育てる新婚時代	「対話の道しるべ」を使って、互いに対話の実習・作業などを通して学んでいきます。
3	21日	信 徒	カップル間に豊かな対話を	対話の大切さを学びつつ、互いに感情を言葉で言い表すことを学んでいきます。
4	28日	信徒夫妻	愛を育てる家庭経済	「あなたはかけがえのない」人であることを学び、互いに愛を分かち合っていきます。
5	5月 12日	医療関係者	素晴らしい性といのち	「神は人を男と女とに造られた」という、そのいのちの神秘を味わいつつ、互いのいのちを尊重していきます。
6	19日	医療関係者	2人で迎える新しい《いのち》	「ビリングス・メソッド」排卵法を学び、生まれてくる新しいいのちを育む大切さを学んでいきます。
7	26日	信徒夫妻	よりよき夫と妻、父と母をめざして	いのちの誕生の神秘とその喜びを学び、より良き妻、夫となることの素晴らしさを学んでいきます。
8	6月 2日	信 徒	2人で歩む道の価値観	いのちの叫びと生まれてくることの喜びを心から受け止め、2人で分かち合っていきます。
9	9日	司 祭	結ばれた2人の道	「神が結び合わせたものを人が離してはならない」という教えを心に留めて、最後まで歩み続けましょう。
10	16日	司 祭	カトリック教会における異宗婚	修了式

子ども聖歌の集い

一人一人の心の光を歌にのせて



聖歌を披露する時津教会の子どもたち

イエスの言葉を
を挙げ、「今
日私たちは、
それぞれの教
会、一人一人が持つ心の
光を歌にのせて、集まっ
た人たちの前で輝かせま
す。歌う人たちは集まっ
た人たちに心を込めて大
好きな歌を発表し、また
聴く人たちはその歌の中
に込められている友だち
の気持ちや伝わるように
よく聴いてください」と
話した。

第2部は、子どもたちが自分たちの教会の紹介を交えながら、2曲ずつ聖歌を発表。美しいハーモニー、韓国語の歌詞や手話を用いての表現など、いずれも特色があり、子どもたちも応援団も熱心に聴き入っていた。

昨年12月14日(日)第23回子ども聖歌の集いが浦上教会で行われ、長崎3地区から集まった12小教区11グループの子どもたちが、練習の成果を披露した。

第1部は川端志範師(浦上教会)司式によるみことばの祭儀。川端師は福音朗読(マタイ5:13-16)の箇所から、「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」という

司教のための 社会問題研修会

号線を南下し、福島第1原発の横を通過して、事故処理の対応拠点となっている「Jヴィレッジ」を訪れた。南相馬市にある司教団のボランティア拠点「原町ベース」に戻る途中、津波被害後、放置されたままのJR富岡駅の慰霊碑で祈りをささげた。同市小高区では被災した寺の住職から、当時の様子、現在の生活状況などを聞いた。

日本カトリック社会司教委員会が12月16、18日、司教のための社会問題研修会を行い、11人の司教とスタッフら総勢22人が、福島市と南相馬市を中心に、2011年東日本大震災による原発事故の被災地と、そこで被災した人・働く人々を訪ねた。

1日目は福島市内で、大震災以来、この地域で復興支援の一翼を担っているカトリック東京ボランティアセンター(CITVC)と、司教団の復興支援「福島デスク」から福島市の現状の説明を受けた。また仮設訪問などの支援を続ける松木町教会では、その活動や信者たちの被災体験を聞いた(写真)。

2日目は南相馬市へ移動。開通した国道6



最終日には、こうした体験に参加者で振り返り、まとめを行った。

大槌ベースボランティア募集

- 3月13日(金) 19日(木) (2/25締切)
- 4月9日(木) 15日(水) (3/25締切)
- 5月14日(木) 20日(水) (4/29締切)

申し込みは所属小教区へ。問い合わせは教区本部事務局(松尾)まで。
TEL 095・842・4450
FAX 095・842・4460

一日マリアポリ

深堀教会で開催

フォコラーレ運動は、第2次世界大戦中の1943年、北イタリアのトレントでキアラ・ルービックによって始まり、

「皆が一つになりましように」(ヨハネ17:21)とイエスが御父に願われた一致の実現に協力するためです。

マリアポリとは、「マリアさまの町」という意味です。49年にキアラとその仲間たちが、夏の休暇を利用して集まり、福

不条理や理不尽な苦しみの中で、「神も仏もあるものか」と不安になる私たちに代わって、「わが神、なぜ私をお見捨てになったのですか」と叫びながら、イエスさまは死ぬそのときまで、決して十字架から降りず、私たちのために、神さまの愛を信じ続けてくださいました。

ベネディクト16世教皇様は、震災を体験した日本の7歳の少女の「なぜこんな悲しい思いをしなければならぬの」という質問に、「私たちは答えを持ちません。でも確かなことは、無実でありながら苦しんだイエスさまが示す、本当の神さまがそばにおられ、愛しておられることです。だから苦しみは無駄ではなく、苦しみを祈りのうちに、私たちは一緒にいるのですよ」という内容のことをおっしゃいました。

みことばにふれて114 中野健一郎神父 (浦上教会)



の「ことば」には、「出来事」という意味もある。本当の信仰とは、どんな道具として私をお使いになりたいのか、「出来事」の中に神さまの「ことば」を聴き取り、摂理を受け入れることであるとい

います。

アントニオ

鍋内清一さん
(鍋内正志師の父)



昨年12月5日、肺炎のため五島中央病院で逝去。80歳。

鍋内正志師は説教の中で、「几帳面な性格の方、ユーモアを交え、人と話すのが好きだった。陸に上がってからは、大工仕事、畑仕事に精を出し、獲れたものをシスター方に食べてもらうのを喜んでいた。父がしていたことの中で神がどのようにそのいつくしみを表されたか、度々思い起こしていきたい」と語った。

葬儀ミサ・告別式は12月7日、福江教会で行われた。

いごう園

▼西坂・聖フィリッポ教会での日本二十六聖人殉教「記念ミサとゆるしの秘跡」 2月5日(木) 9時、11時、13時、15時、17時、19時。9時から20時までゆるしの秘跡。長崎南地区司祭団主催。

▼大浦天主堂献堂150周年記念ミサ 2月19日(木)19時、大浦天主堂。

▼司祭・助祭叙階式 3月1日(日)15時、浦上教会。

▼映画「うまれる」上映 2月8日(日)11時・14時(2回上映) カトリックセンター。入場無料。教区家庭特別委員会、青少年委員会主催。

▼日本の信徒発見150周年記念「聖母行列とミサ」——次世代に信仰を

▼遠藤周作原作、松村禎三作曲、オペラ「沈黙」 2月15日(日)13時、長崎ブリックホール。チケットは浜屋ブレイガイド他で販売。長崎県など主催、長崎教区など後援。問合せ先・同実行委員会。

▼祭壇奉仕者選任式および助祭・司祭候補者認定式 2月19日(木)13時、浦上教会。

▼聖トマス西と十五殉教者記念庭園祝福式と講演 3月16日(月)中町教会。

●講演 16時。講師・片岡千鶴子修道女。●祝福式 17時。



フォコラーレ 小坪玉美



精道三川台小学校(男子校)
第3回入学審査(新入生) 2月14日(土)
転入試験(現1年生~5年生) 出願期間2/5(木)~2/12(木)
〒852-8121 長崎市三川町1234-1 Tel & Fax. 095-845-6846
HP: http://www.seido.ed.jp/c1502

主の平安
株式会社 五島式典社(斎場) 五島中央会館
代表取締役 コセフ 浦 昭
24時間営業
五島市上津町 1385 番地 TEL (0959) 74-5551
FAX (0959) 74-5552
五島市奈留町浦 1899-1 TEL (0959) 64-3101
FAX (0959) 64-3102

なが さき せき ちょう
長崎石彫
ヨゼフ 岩永 博明
☎(095)862-2469
長崎市梁川町6-17 岩永ビル

聖マリア学院同窓会会員の皆様へご案内
感謝のミサ・卒業式へご参列を!
ミサ日時:平成27年3月7日(土)10時~(城山教会聖堂にて)
(意向)中学校休校に伴う55年間の感謝と再開・小学校発展を願う
卒業式日時:平成27年3月16日(月)10時~(城山教会聖堂にて)
(お問い合わせ先) 〒852-8023 長崎市若草町6番5号
聖マリア学院同窓会事務局 tel(代) 095-844-1549

タンスの中身は入れたまま
責任ある安全運送!!
(見積り無料・荷造り発送
も致します)
貨物保険有り
・一般引越
・小荷物
・遠距離
・学生引越
・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7:00~22:00
水浦運送
シモン 水浦 幹雄
長崎市上野町12-3
TEL(095)847-7151
844-1420